

事務事業	11002	ファミリーサポートセンター運営事業	担当課 課長	子育て支援課 吉原正治	担当係 担当者	子育て支援係 小林敦香
計後 画期 体計 系画	施策	05 子どもを安心して生み育てることができるまちをつくる	予 算 科 目	会計	1	一般会計
	取り組み方針	130 子育てしやすい保育環境を整える		款	3	民生費
法令根拠条例等			子育てサポートセンターしめ運営要綱		個別計画	
実施期間	□28年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		H13 年度より開始		□期間限定(複数年) 年度～ 年度	

【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください)	<input type="checkbox"/> 2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる)	
保育園や学童保育以外の子育て支援として、「育児の援助を受けたい者(おねがい会員)」と「育児の援助を行いたい者(まかせて会員)」からなる有償の子育て援助活動の運営を行う。その運営主体である「子育てサポートセンター」に配置されたコーディネーターが会員間の調整・援助活動報告の取りまとめを行い、町は援助を受けた人に対し、補助金を支払う。その他に、にじいろポケットの管理等を行う。		
【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください)	主 な 事 業 費 の 内 訳	
会員募集の広報、講習会開催、子育て講座の実施、援助活動のコーディネート、援助活動補助金支払、託児報酬金支払、にじいろポケット維持管理		
講師謝礼金		140 千円
託児謝礼金		130 千円
賠償保険料		124 千円
子育てサポートセンター援助活動補助金	114 千円	
消耗品費	77 千円	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

事務事業の目的	① 手段(主な活動)	④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)
	28年度に行った主な活動(※箇条書きで記入) ①会員募集の広報 ②講習会の開催 ③子育て講座の開催 ④援助活動のコーディネーター ⑤援助活動補助金の支払 ⑥託児報酬金の支払 ⑦にじいろポケットの開放・情報コーナーの管理	名称 ア 会員数 イ 援助活動回数(延べ) ウ 講習会回数
	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	指標数値 単位 27年度 28年度 29年度
	・子育ての援助を必要とする人(小学生以下の子どもを持つ人) ・子育ての援助をする人 ・小学生以下の子どもを持つ人	名称 ア 小学生以下の子ども数 イ おねがい会員(+どちらも会員数) ウ まかせて会員数(+どちらも会員数)
	③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか)	⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)
	・必要ときに子どもを預ける。 ・頼まれたときに子どもを預かれる。	名称 ア 本年援助活動回数-前年援助活動回数(延べ) イ おねがい会員一人あたりの年間依頼件数 ウ まかせて会員一人あたりの年間活動件数 エ 会員数 オ
	⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
	名称 ア 本年援助活動回数-前年援助活動回数(延べ) イ おねがい会員一人あたりの年間依頼件数 ウ まかせて会員一人あたりの年間活動件数 エ 会員数 オ	

(2) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(千円)	27年度 (決算値)	28年度 (当初予算)	28年度 (決算値)	29年度 (当初予算)	30年度 (計画)	31年度 (計画)
	国・県支出金、地方債等	1,572	1,332	1,572	1,332		
	受益者負担等						
	一般財源	1,339	2,182	1,452	2,215		
	合計(A)	2,911	3,514	3,024	3,547	0	0
	(内臨時・嘱託職員人件費)	2,347	2,786	2,439	2,819		
	正職員人件費[按分](B)	1,462	770	681	754		
トータルコスト(A)+(B)	4,373	4,284	3,705	4,301	0	0	

事務事業評価表(事業実施年度:平成28年度)

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を開始したきっかけは何ですか?いつ頃どんな経緯で開始されましたか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか?	③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか?(誰からの意見か明記)
平成13年3月から育児の援助を行いたい者と育児の援助を受けたい者が行う相互援助活動を支援することによって、子育てする者が育児と仕事を両立させ、心の余裕をもって子育てができる環境づくりを行うことを目的に実施している。利用料については、一時預り保育等の類似事業と比較して割高感のある援助活動利用料金の一部を補助することにより、センター開設以来伸び悩む援助活動の活性化を目指すために、平成16年度より一部補助を開始。同時に「にじいろポケット」を開設し、子育てママの交流の場とした。	この事業は平成16年度から開始し、利用延べ人数は、平成17年度の774人をピークに年々利用件数は減っている。20年度から援助活動補助金を1時間当たり350円から200円に改定したこともあり、利用人数が落ち込んだが、21年度は再び利用が伸び、平成21年度は436人、平成22年度は469人、平成23年度は380人、平成24年度は312人となっており、ここ数年は減少傾向である。利用内容は、保育施設への送迎が一番多く、また、リフレッシュでの利用はほとんどない。	利用者の補助金を増額してほしい。

(4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

昨年度の事務事業評価結果		28年度の取り組み状況と今後の方針	
事業の方向性	平成28年度の取り組み概要及び期待される効果	実施状況	実施できなかった理由と今後の方針
<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	子育てサポートセンターの広報を積極的に行うことで、会員登録者を増やす。通信紙やポスターを作成し、保育園や小学校で掲示する。また、講座の講師は、コストのかからない方向で提案していく。	<input type="checkbox"/> 記述どおり実施できた(コメント必要ありません) <input checked="" type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→)	講座の講師に関して、例年と変わらず外部からの講師依頼をして開催。今後、保育士や保健師等で講座を実施したい。

2 評価(SEE)及び全体総括の部*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1) 評価

	評価の理由
目的妥当性評価 ① 上位施策への貢献度は大きいですか? ※総合計画を参照してください <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→)	子育ての援助を必要とする人が、必要なときに子どもを預けられることは、安心して子どもを育てることができることにつながる
② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか? (事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか?) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→)	認可保育園や届出保育施設・学童保育所では対処できない場合を補い、子どもを安心して預けることができる支援の制度が必要なため
有効性評価 ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がある(理由→) <input type="checkbox"/> 成果向上余地がない(理由→)	認可保育園や届出保育施設・学童保育所では対処できない部分の保育(送迎等)を補えることをもっとアピールし、当事業を幅広く知ってもらおう。具体的な方法は、広報の掲載に加え、ポスターを作成し、保育園や小学校で掲示する。
評価 ④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→)	利用者がいるため、廃止すると子育て支援に支障をきたす
効率性評価 ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか?(広域連携や民間委託等の導入など) <input checked="" type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input type="checkbox"/> ない(理由→)	子育て講座は、保健師や保育士などで出来る部分があると思われる

(2) 28年度を振り返って(全体総括・反省点)

まかせて会員が特定の方ばかりとなり、不足する結果となった。気軽に利用していただけるためにも、まかせて会員の募集に力を入れていく。

3 今後の方向性(29年度以降の計画と30年度予算への反映)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) <input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input checked="" type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→ <input type="checkbox"/> 事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	(2) 平成29年度以降に取り組む内容と期待される効果 子育てサポートセンターの広報を積極的に行うことで、会員登録者を増やす。通信紙やポスターを作成し、保育園や小学校で掲示する。また、講座の講師は、コストのかからない方向で提案していく。 会員になっても、預かる側の不安や預ける側の不安等の声が聞かれたため、H29年度は預かる側のみ、預ける側のみそれぞれの交流をし不安や悩み、喜びを共有できる機会を設ける。
--	---